

男女共同参画社会づくり推進活動事業成果報告書

報告日 令和7年3月24日
 団体名 「国際女性デー」あいづ実行委員会
 報告者名 松嶋加代子

開催事業名	「国際女性デー」の意義を考える講演会		
開催日時	令和7年3月9日 14時00分～16時30分	出席者数	35人
会場	ピカリンホール		
内容	日 時 2025年3月9日（日） 第1部 講演会 14：00～15：20 第2部 ワークショップ 15：30～16：30 会 場 ピカリンホール テーマ 地域から始める、ジェンダー平等への一歩 講演内容 ジェンダー平等や女性の社会参画に関する意識向上を目的とし、地域社会で取り組める具体的な方法や、女性が活躍するためのヒントについて、講師の元井貴子氏によるご講演。 講 師 元井 貴子 氏 桜の聖母短期大学 キャリア教養学科 准教授 対象者 一般県民（年齢・性別問わず） 定員：80名（予約の方優先） 参加費無料 主催「国際女性デー」あいづ実行委員会 問合せ先・申込先 090-1612-6528		
所感	本事業は、3月8日の国際女性デーを記念し、ジェンダー平等や女性の権利について学ぶとともに、地域における女性の活躍の場を広げるための意識を高めることを目的として開催しました。（講演会参加者：35名） また、ワークショップでは、参加者同士が意見を交換しながら共に考え、行動へとつなげるきっかけを提供することを目指しました。（ワークショップ参加者：31名） ※ 「成果や効果」「今後の課題と展望」については別紙のとおり。		

※別紙

1, 成果や効果

本事業を通じて、ジェンダー平等や女性の権利に関する意識の向上を図ることができました。
(講演会参加者：35名、ワークショップ参加者：31名)

講演では、現実には起きている社会問題について具体的な事例をもとに課題が明確にされ参加者にとって新たな気づきと学びの場となりました。特に「消極的平和」と「積極的平和」の概念を通じて、平和やジェンダー平等は受け身で享受するものではなく、自ら考え、行動し、共に作っていくものであるという意識が醸成されました。また、国内のジェンダー課題についての現状分析が行われ、参加者に深い理解と気づきを与える機会となりました。

講演を受けて行われたワークショップではファシリテーター主導のもと、参加者同士が意見を交換しながら、地域における女性の活躍推進や課題解決に向けた具体的なアクションについて考える場を提供しました。参加者の積極的な発言や交流が見られ、ジェンダー平等の実現に向けた意識変革のきっかけとなったことが大きな成果です。

また、ワークショップの中で「片付けが世界平和につながる」との意見が出たことで、日常の小さな行動が社会全体に影響を与え得るという考え方が共有されました。さらに、世界の深刻な問題についても触れられ、特にアフリカにおける少女売春や強制結婚の問題が紹介されました。これにより、参加者にとって大きな衝撃を与えるとともに、「自分事として捉え、考え、行動する」ことの重要性を再認識する契機となりました。

講師の元井貴子様の講評では、「会津の皆さんならば！」との期待のもと、深刻なテーマにも関わらず真摯に受け止めていただけたことに感激したとのお言葉をいただきました。

これは、本事業が地域におけるジェンダー課題への関心を高め、主体的に取り組む意識を醸成する契機となったことを示しています。

このように、講演とワークショップを通じて、参加者の価値観や行動の変容につながったことは、本事業の大きな成果です。

2, 今後の課題と展望

本事業を通じてジェンダー平等への関心が高まる一方で、課題解決には継続的な取り組みが必要であることが明らかになりました。特に、地域の課題にとどまらず、グローバルな視点を持って議論を深めることが求められます。今後は、本事業を契機に、地域社会全体での継続的な取り組みへと発展させていくことが重要です。

今後の展望として、以下の取り組みを進めていく予定です。

○継続的な学びの場の提供：定期的な講演会や勉強会を開催し、参加者がジェンダー課題について深く学び続けられる環境を整える。

○実践的な支援の強化：地域の女性リーダー育成やキャリア支援を行い、実際に地域で活躍できる女性を増やす。既存のリーダーが次世代へと繋ぐ役割を果たし、地域全体で女性の活躍を支える体制を整えていく必要がある。

○多様な世代の参加促進：若年層や男性にも積極的に参加してもらうための工夫を行い、ジェンダー平等の取り組みを社会全体で支える仕組みを作る。

今回の講演を通じて「自分事として考え、行動することの大切さ」が多くの参加者に響いたことを踏まえ、地域全体での意識変革を促進し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。今後も専門家や関係者と連携しながら、意識啓発や支援活動に取り組んでまいります。

2025/03/24

「国際女性デー」の意義を考える講演会

収 支 決 算 書

収入の部

項 目	決算額	備 考
自己負担額	28,792	
会津若松市助成金	28,600	対象経費の1/2 ※上限100,000円
合 計	57,392	

支出の部

項 目	決算額	備 考
会場借上料	3,300	
講師謝礼金	30,000	
講師交通費	5,720	J R福島駅～会津若松駅 往復
チラシ作製費	15,000	
チラシ印刷費	3,372	A4、片面カラー、800枚
合 計	57,392	